

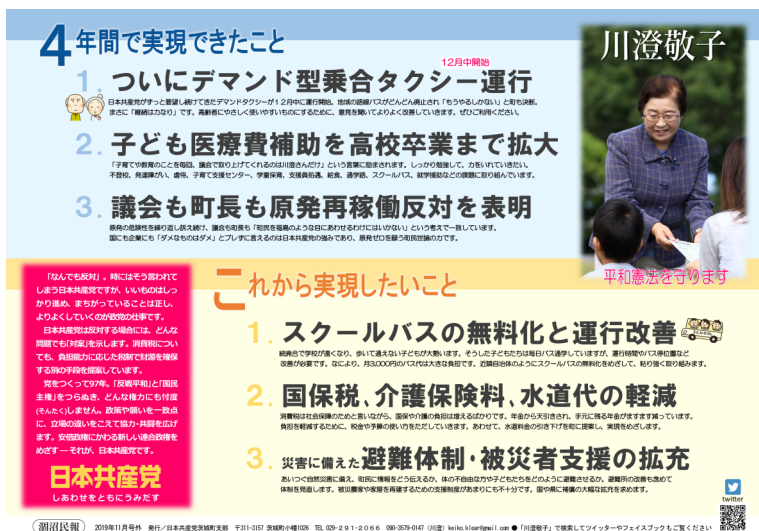


川澄敬子事務所 茨城町小幡1026（自宅隣り）
 ※6号国道沿い・駐車場有
 電話／029-291-2066

先の台風や大雨により町内も被災しました。建物の浸水や農作物・農業用施設等の復旧や生活再建支援について、お困りごとなどありましたらご連絡ください。少しでも力になれるよう取り組みます。

「涸沼民報」の配布にご協力ください

川澄敬子の活動や政策をお知らせする「涸沼民報」号外を町民の皆さんにお配りしています。▼「まちの宝は ゆたかな自然とそこに住む人々」▼原発ゼロは私の原点▼4年間で実現できたこと▼これから実現したいこと▼ご感想・ご要望をお寄せください。



・・・参加者からの激励あいさつ・・・

- 敬子さん、がんばってください。（千貫桜区長 桧山邦明さん）
- 大雨で水没した軽トラや収穫後のコメを補償する制度がつくられていません。ぜひ、国や県に制度をつくらせ、農業を続けられる支援を実現してほしい。（農民連書記長 村田深さん）
- 敬子さんは強い情熱と確たる信念の持ち主。子どもに接するときの優しい姿やライフワークの絵本の読み聞かせ活動を尊敬しています。（大学時代サークル仲間 石井あきらさん）
- 私の塾の先生だった敬子さんが、いまは議員になって子育てを応援する町をつくるために頑張ってくれています。行政の信頼できる子育て支援を望みます。（2歳児の母親 荻谷祥子さん）
- 東海第二原発の再稼働反対と廃炉を求める活動を、ずっと一緒にやっている仲間です。川澄さんは活動を盛り上げてくれる存在。川澄さんがいると安心します。（伊達さん、入野さん、小山さん、片山さんほか）
- 磯部光雄さんから川澄さんに活動が繋がっていてうれしいです。一生懸命な姿勢に、ますます期待しています。（海老沢在住 篠原美士子さん）
- 日本共産党議員がいるかいなかで、議会も町政も変わってきます。子育ても、農業も、老後も安心の町をつくるために、川澄さんを押し上げてください。（県議会議員 江尻加那さん）

そのほか、多くの皆さんから激励をいただきました。



2019年
11月1日
第146号

**日本共産党
茨城町支部**
 〒311-3157
 茨城町小幡1026
 TEL/FAX
 029-292-5278
 090-3579-0147
 keiko.klear@gmail.com





川澄敬子の事務所開きあいさつ(要旨)

事務所開きに多数ご参加いただきありがとうございます。皆様のご支援とご協力により、この4年間議員として働くことができました。

ついにデマンド型乗合タクシー運行

12月からデマンド型乗り合いタクシー事業が始まります。

路線バスが廃止・縮小される中、お年寄りから「買い物や病院への通院が不便だ」とたくさん要望が出されていました。

共産党は、磯部前議員が何度も議会で取り上げるなど、粘り強く要求してきました。

巡回バスやデマンドタクシーなど公共交通を実施していない自治体が県内3自治体だけになっていました。

昨年の12月議会で町がデマンド型乗り合いタクシー事業を始めると表明して以来、町民からは期待の声が寄せられています。同時に、運行が町内に限定されることや、土日の運行がないことについて要望が寄せられています。

皆さんの声を聞き、お年寄りにとって使いやすい安心できる事業になるよう、これからも取り組んでまいります。



子育てや教育 毎議会で質問

この4年間、毎回一般質問を行ってきました。登壇する議員がわたし一人だったこともあります。

必ず取り上げたことの 하나가子育てや教育問題です。

学校現場では先生が忙しく、子どもたち一人ひとり丁寧に向かい合う時間が足りない中、不登校の子どもが増えています。

不登校の子どもたちのために、町には支援教室【とんぼのひろば】があるのですが、学校に戻すことが強調され、そこにも通えない子どもも多いという声がお母さんから寄せられました。



ひたちなか市では、子どもたちのお兄さんお姉さんぐらいの年齢の学生などを家庭に派遣する心のサポーター制度があります。

わたしは一般質問で不登校の問題を取り上げ、「【とんぼのひろば】では学校へ戻ることを促すのではなく、まず子どもたちの居場所となるようにしてほしい」、また「家から出られない子どものための支援制度を作してほしい」と要望しました。

町の担当課はひたちなか市の制度や県からの補助制度を調べ、新たにスクールライフサポーター制度を導入しました。

今後の取り組みを見守っていききたいと思います。

医療費補助を高校卒業まで拡大

このほかにも、子どもの医療費助成制度が、入院・外来とも高校卒業まで補助が実現しました。県が入院のみ高校卒業まで補助を拡充した際、町独自で外来まで予算化したのです。

これからも子どもたちの未来のために、子育て支援・教育の充実を求めています。

町の基幹産業である農業を守る取り組み、消費税増税で苦しい経営となっている商工業への支援策、また障がいを持つ方、難病の方、がん患者の方など、いのち・くらしを守る町政のために、皆さんと力を合わせていきたいと思っています。



原発ゼロはわたしの原点

最後に、東海第二原発廃炉をめざすことについてです。

「原発ゼロ」はわたしの原点です。

2011年の東日本大震災および福島第1原発事故は、わたしの生き方を変え、町議選に立候補する大きな契機になりました。

町議会では、全会一致で東海第2原発の再稼働に反対する意見書が採択されました。町長も、「町民の安全を守るために再稼働に反対する」と表明しました。

わたしは一般質問で繰り返しこの問題を取り上げ、町長に反対表明を迫ってきました。町議会で意見書を提案した副議長は、「町民を福島のような目にあわせるわけにはいかない」と述べ、これは全員の共通した思いです。議長からは、「川澄さん、茨城町議会も町長も反対で一致しているから、安心しろ」と言われました。

他の自治体の方からは、「茨城町はすごい」と言われますが、町民のいのちとくらしを守るためには、あたりまえのことではないでしょうか。反対できないのは、経済優先、金もうけ優先の政治だからです。関西電力の原発マネー還元事件はそのことを如実に表しています。

これから4年間には、必ず東海第2の再稼働問題が山場を迎えます。町民の安全を守るための実効性ある広域避難計画も策定できていません。

東海第2原発の再稼働をストップさせるためには、日本共産党の議席がどうしても必要です。

皆様のご支援で、ふたたび議会に送り出していただくことをお願いし、訴えたいと思います。ありがとうございました。

